



愛知県畜産総合センター(本場)
種畜部 酪農肉牛課 乳牛担当(現 愛知県立農業大学校 畜産科)
兼子明美



○職場の紹介

当センターでは、家畜の改良を推進するため、乳牛・和牛・豚の優良な種畜を畜産農家に供給しています。牛は受精卵の形で譲渡することもあります。

その他にも、畜産に関する研修、技術相談、畜産技術練習生の受け入れなどを通じて、人材育成、後継者育成を図るとともに、県民と畜産の「ふれあいの場」を提供しています。加工実習のハム作りは人気が高く、再来者も少なくありません。また、自然環境に恵まれているので、保育園・養護学校・家族連れなど、多くの来訪者があります。

県外の方にはよく間違われるのですが、当センターは試験研究機関ではなく種畜の供給施設なのです。

○担当分野の紹介

私は乳牛を担当しており、経験豊富な技術者や現場作業員とともに、輸入スーパーカウ・搾乳牛・育成牛・採卵用和牛あわせて約100頭の世話をしています。同じ敷地内には種豚130頭が飼育されており、毎日大量の糞尿が発生します。私を含め3名が浄化槽担当として、課の枠を超え共同業務として浄化槽管理をしています。

平成12年度までは、糞尿処理に詳しい担当者が1名で管理していましたが転勤により、それまで未経験の3名が浄化槽担当となりました。複数での管理体制になったのは、担当者の転勤によって管理に支障が生じないように、また、「三人寄れば文殊の知恵」何とかなるだろうとの配慮だったのではないのでしょうか？

○格闘し続けたこの1年

引継ぎは受けたものの、失敗と模索の繰り返しの1年でした。汚泥に混合する凝集剤の割合を間違えて、ろ床に汚泥をそのまま流してしまいました。対外的なイメージに配慮して、液肥散布を中止し汚泥を全量堆肥化することとしました。沈殿槽浮遊物を除去するための排水管を使用後閉め忘れて、汚泥貯留槽が満水になってしまいました。原水の流入量が多いのに流量調整の方法を知らず、満水のランプが何個も点灯しました。台風で雨水が混入し、満水になってしまったこともあり。季節によりなぜか汚泥量変動しました。その都度、保守管理契約しているプラントサービス担当者に相談し、設計図・仕様書を見て、畜産環境アドバイザーのテキストを紐解き何とか1年が過ぎました。

既存施設を管理するのがやっとの1年でしたが、失敗の数だけ仕組みもわかり、水をきれいにしてくれる魔法の箱の仕掛けがわかるようになりました。波乱含みの1年間も水質の維持ができた

のは、余裕をもった県の施設であったからでしょうか？

○ 畜産農家の理想を目指して

家畜を飼う上で、糞尿処理は必ず付きまとう問題です。それは、県の施設であっても同様です。家畜がいるから糞尿処理を行うのですが、本県では立地条件や経営形態などにより糞尿処理能力に大きな差があり、これにより飼養規模が制限されている畜産農家が多く見られます。それほど、畜産経営に占める糞尿処理問題は重要になっているのです。このような現実の中、県の施設として、可能な限り糞尿処理の理想を示せるような維持管理を目指していきたいと思います。また、実際に浄化槽を維持管理した経験をもとに、「家畜の口に入るものから出た糞尿処理まで相談相手になれるような技術者・・・」目指して、今日も牛舎と浄化槽の間を往復したいと思います。

うちのかわいい子牛と浄化槽は今日も消化不良を起こしていないかな・・・？